

特集

## 新型コロナウイルス

# 子どもの重症化 少ない

### 世界で報告次々

中国や米国、イタリアの調査では感染確認された人のうち、18歳未満が占める割合は2%に満たない。また、中国では感染や感染が疑われた子どものうち、9割以上が無症状か軽症、中程度の症状で重症化は約6%だった。

感染しても大人と同じようにウイルスを広めるかどうかもよく分からぬ。英紙ガーディアンによると、4月半ばから小学校などを限定再開している欧州でも、学校を介した感染拡大の兆候は見られないという。

参考資料  
6月2日  
朝日新聞

### 川崎病に似た症状？

欧米では、子どもに多い原因不明の「川崎病」に似た症例も報告され、新型コロナとの関連が指摘されている。

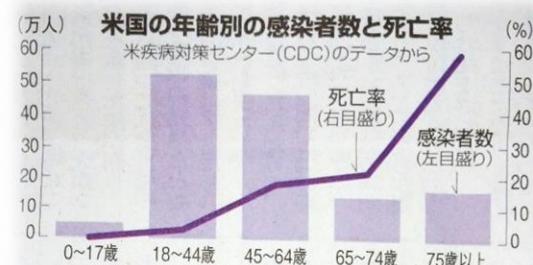
日本では、日本川崎病学会が日常的に川崎病の診療を担う医師にアンケートしたところ、新型コロナの感染者に川崎病のような症状が出ている子どもはいなかった。今年2~4月に診療した川崎病の患者数は前年の同じ時期と比べて減少、あるいは同じくらいの医療機関がほとんどで、「現段階で川崎病と新型コロナの関連を積極的に示唆できるような情報は得られていない」との見解を出した。

### 一斉休校に疑問も「検証が必要」

新潟大の斎藤昭彦教授（小児科医）は、「そもそも患者が少なく、評価が極めて難しい」としながらも、学力の低下、屋外活動や社会的な交流が減ったことで抑うつ傾向に陥ったり、家庭内暴力や児童虐待のリスクが高まったりするなど、心身への悪影響が大きいのではと指摘。「流行していない地域での一斉休校の是非や、対策が本当に効果があったのかなど、検証が必要だ」と話しています。

### 日本では？

日本国内でも、感染者に占める子どもの割合は少ない。厚生労働省のまとめによると、5月27日時点で10歳未満は278人（1.7%）、10~19歳は390人（2.4%）にとどまる。重傷者や死者の報告もない。



### 子どもの感染に関する医学的知見

日本小児科学会まとめ、5月20日時点

- 患者に子どもの割合は少なく、ほとんどは家族内で感染
- 学校や保育所におけるクラスターはないか、あるとしても極めてまれ
- 大人と比べて軽症で、死亡例もほとんどない。経過観察や対症療法で十分とされている。
- ただ急性の呼吸不全は要注意
- 乳児では発熱だけのこと。
- 海外の例では10代で足先に凍傷のような皮膚病変ができることがある
- ウイルスは鼻の奥より、便の中に長期間、大量に出される
- 海外の報告では、学校や保育施設の閉鎖は流行阻止効果に乏しい



現実を冷静に捉え、子どもたちの未来を考えよう！